

薬害血友病患者の口腔衛生状態に関する実態調査

研究分担者

高鍋 雄亮 国立国際医療研究センター・歯科口腔外科

研究要旨

血液製剤や抗 HIV 治療薬の開発により薬害血友病患者の長期療養が可能となり、高齢化に伴うエイジングケアの必要性が高まっている。高齢になり口腔の状態が悪化すると、オーラルフレイルに陥り全身的なフレイルへとつながることも知られているため、健康管理の一環として継続的な口腔ケアや歯科検診が必要と考えられる。以前より血友病患者は出血の心配や手首の痛みで歯みがきが不十分になったり、歯科の受診を避けたりする傾向が指摘されている。そのため、う蝕や歯周炎が進行し血友病患者は血友病ではない人よりも早く歯を失うことが多いといわれている。さらに HIV 感染者は歯科受診拒否などの問題もあり、歯科受診体制が十分に整備されていない。また、出血予防や全身的な健康管理のために、薬害血友病患者の口腔管理は非常に重要と考えられるが、薬害血友病患者の口腔衛生状態や口腔ケアの実態、歯科受診状況など不明な点も多い。そこで、リハビリ検診会の参加患者を対象として、う蝕や歯周炎の有無、残存歯の状況といった口腔内の状況や口腔衛生状態に関する調査を行い、対象者の口腔健康管理に貢献することを目的とする。

A. 研究目的

本研究では、薬害 HIV 感染者における口腔衛生状態の実態調査を行う。対称群として歯科疾患実態調査の結果を用いて、健常者との口腔状態に関して比較して問題点を検討する。また、口腔ケアの実施状況（使用器具や回数など）、歯科受診状況に関して簡単なアンケート調査を行う。

最終的に薬害 HIV 感染者に対する口腔環境や機能の向上に貢献することを目的とする。

B. 研究方法

リハビリ検診会において、薬害 HIV 感染者の歯科検診を行い、口腔衛生状態の実態調査を行う。さらに、口腔ケアや歯科受診に関して簡単なアンケート調査を行う。

本年度はリハビリ検診会に参加して、研究計画の立案を行う予定とした。

C. 研究結果

本年はリハビリ検診会に初参加であったため、全国 4 か所で行われた全てのリハビリ検診会に参加し、リハビリ検診会の実施状況や方法に関しての実地確認を行うとともに、今後実施する調査や検査に関して情報収集を行った。次年度以降に、実施する調査や検査に関して考察し、研究に関して再考し、計画立案を行った。

口腔環境の調査だけでなく、口腔機能に関する調査も必要と考えられた。

D. 考察

患者面談により、患者の口腔に関する関心の高さが伺えた。その一方で、歯科治療に関しては消極的な姿勢や予防に関する意識の低さが感じられた。歯科受診や口腔ケアに関して行動変容を促すような情報提供ができるような調査が必要と考えられた。

E. 結 論

リハビリ検診会の実施状況を確認し、以下の調査を行う予定とした。

- 1) リハビリ検診会での歯科検診
- 2) 口腔機能に関する検査
(口腔機能低下症に準じた検査)
- 3) 口腔ケア、歯科受診に関するアンケート調査

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし